

臺灣新地誌
全

特31

510

026613-000-4

特31-510

台灣新地誌

石井 宮三郎/編

M28

ADD-0297



臺灣新地誌

東京 田沼書店藏版

凡例

一 此書ハ本縣小學校教則ニ據リテ現行幾多ノ

小學日本地誌ニ缺ケタル臺灣ノ部ヲ補ハン

タメニ編述セリ

一 教授ノ時間ニ限アリ生徒ノ學力ニ度アリ故

ニ勉メテ記載ノ事項ヲ簡潔ニシ文字ノ使用

ヲ平易ニセリ

一 固有名詞及ヒ字句ノ讀ミ難キモノニ假字ヲ

附シ、ハ生徒ノタメナリ欄外ニ掲ケシ事項

ハ教授者ノ參考ヲ資ケントテナリ

臺灣新志

東京 田沼書店藏版

特31
510

凡例

一此書ハ本縣小學校教則ニ據リテ現行幾多ノ

小學日本地誌ニ缺ケタル臺灣ノ部ヲ補ハン

タメニ編述セリ

一教授ノ時間ニ限アリ生徒ノ學力ニ度アリ故

ニ勉メテ記載ノ事項ヲ簡潔ニシ文字ノ使用

ヲ平易ニセリ

一固有名詞及ヒ字句ノ讀ミ難キモノニ假字ヲ

附シ、ハ生徒ノタメナリ欄外ニ掲ケシ事項

ハ教授者ノ參考ヲ資ケントテナリ

臺灣新志

田沼藏版

一此書ハ讀本ニモ代用シ庭訓ニモ適センコト
ニ意ヲ用キタリ而シテ編述ノ際力メテ博索
シテ備ヲ求メタレドモ但當時猶^ホ參考ノ材料
乏キニ困ム其精其具ニ至リテハ他日補刪シ
テ完成スルヲ期ス

明治二十八年

編者 識

臺灣新地誌

石井宮三郎 編輯

臺灣 明治廿八年六月、新ニ我國ノ版圖ニ入り

シ、豐饒ニシテ、要害ノ地ナリ。

歐米人ハ、フオルモサー島ト呼ブ、美麗ノ地ト

云フ義ナリ、支那ノ人ハ米庫ト呼ブ、米ノ豊ニ稔

ルヲ以テナリ、我國ノ人ハ、古ヨリ高砂ト云フ、海

邊ノ景色、播摩ノ高砂ニ似タルヲ以テナリ。

第壹章 位置及區別

臺灣ハ、東海ノ最大島ニシテ、英國ダリニツチ東經

臺灣

大宛、東蕃
東寧トモ
イフ

高砂ハ塔
御或ハ
沙古ト書
ス

位置

呂宋ハ西
班牙領ナ
リ

東西狭キ
所ハ僅ニ
四里ニ過
ギズ

區別

百二十度十五分ヨリ、百二十二度ニ達シ、北緯二
十一度五十三分ヨリ、二十五度十六分ニ至ル。
東北ハ、琉球ノ與那國島ヲ距ルコト、三十餘里、南
ハ呂宋ヲ距ルコト、九十餘里、西北ハ臺灣海峡ヲ
隔テ、清國福建省ニ對ス。
東西凡、四十里、南北百里、周圍二百七十里、面積三
千方里ニシテ、略九州ニ均シ。
島内ヲ三府、一州、十一縣、三廳ニ分ツ。
臺北府 淡水縣 宜蘭縣 新竹縣 鷓籠廳
臺灣府 臺灣縣 彰化縣 雲林縣 苗栗縣
埔里社廳

地勢

地質

臺南府 嘉義縣 安平縣 鳳山縣 恆春縣 澎湖廳
臺東州 卑南 蓮花港 生蕃等ノ區別アリ。
第貳章 地勢地質及氣候
北ヨリ南ニ互リ、島ノ中央ニ一帯ノ山脈アリテ、
地勢自、東西ノ二部ニ分レ、東部ハ山嶺相連リ森
林多ク、未開ノ蕃地ニ屬スレバ、西部ハ平行ニシ
テ、地味肥エ耕作地ニ富メリ。
東岸ハ斷崖ニシテ、波浪常ニ高ク、船ヲ寄スルコト

南岸ノ險阻ナル所ハ歌類モ通行スル能ハズ土蕃出獵ノタメ其處ヲ通過スルモノハ猪皮數枚ヲ合セタツ靴ヲ穿ルトイフ

氣候

甚難シ、南岸ハ、粘土、砂石、珊瑚質混合シ、其表面ハ鋸齒形ヲ爲シ、險キヲ言フベカラズ。西岸一帶ハ、泥沙ニシテ遠淺ナリ、又北部ハ地震頗ル多ク、硫黃ノ噴出スル所アリ、温泉ノ湧キ出ル所モアリ。熱帶地方ナルガ故ニ、周年寒ヲ知ラズ、暑ハ百度以上ニ昇リ、寒ハ四十二度ヲ降ラズ。サレドモ炎暑ノ候ニモ涼風アリ、露氣滋キタメ人身ニ適セリ、春夏ハ旱多ク、秋冬ハ雨多シ。又天氣ハ、快晴ノ日多ケレドモ、東北ノ風吹クト

東岸ハ東北ノ定期風最モ強シ

生産

茶樟ハ北方ニ産シ甘藷ハ南方ニ産ス臺灣島ヨリ一年間ニ輸出スル茶葉ノ高ハ我全國一年間ノ輸出高ヨリ優レリト云フ

果物之圖



キハ、室内砂塵ニ埋ルト云フ。

第參章 生産物

砂糖、樟腦、米、石炭、茶ハ、最モ有名ノ産物ニシテ、盛ニ輸出ス。農産ニハ麥、豆、落花生、藍、木綿、水瓜、甘藷等アリ。果實ニハ椰子、鳳梨、香蕉、其他夥多アリ。

竹ノ大ナルハ周圍
三尺餘アリ土人之
ヲ筏トナス
水牛ハ農事ニ役ス

山

植物ニハ、榕、楓、紅木、黒木、無花果樹、露兜樹、楠柳木、
綠珊瑚、栴柳樹、小楠木、竹、藤等ナリ。
鳥類ニハ、鷄、鶯、鶻、鵲、鳩、燕、雀、小鴨、夏鷄等アリ。
獸類ニハ、鹿、猪、熊、豹、猿、兔、馬、牛、犬、猫、石豹、水牛、栗鼠、
狼等アリ。
礦物ニハ、硫黃、石炭、砂金、紅水晶等アリ。
製造品ニハ、魚鮓カラスミ、鰻卵、麻布、生蕃布、竹細工等アリ。
第四章 山河湖

北ニ大鷄籠山、陰雲山アリ。中央ニハ、大鳥山、分水
山、分水崙、魁斗山アリ、ソノ西南ニ、三凸崙、蠟鏡ガウキヤウハ

モリソン
山ハ水面
ヨリ高キ
一萬二
千尺

河

峯、老鷄山、馬鞍山アリ、南ニモリソン山、南馬山ア
リ、其他火山ヲ以テ著ル、モノハ、臺北府ノ紗帽
山等ナリ。
淡水河ハ、縣城ノ東北山ニ發シテ、北ニ流レ、鷄籠
ニ至リテ、西ニ轉ジ、又北ニ折レテ、海ニ入ル。
西岸ニ注グモノハ、大甲河、河東河、東寧河、沙古川、
下淡水等ナリ。
東岸ニ注グモノハ、奇萊河、トント河、吐子河等ナ
リ。

湖畔ノ土
蕃ヲ水養
トイフ

内地ニハ、湖水少カラズ、中央ノ最モ大ナルモノ

八里坌口
港
トモイフ

基隆
トモイフ



圖ノ港水淡

ハ、水社湖ナリ。

第五章 港、岬、

淡水港 淡水河口ニア
ル良港ニシテ、兩岸ニ高
山アリ、港内水浅ク、軍艦
入ルヲ得ズ、實ニ本島
要害ノ港ナリ、北岸一里
許ニシテ市街アリ、滬尾
ト云フ、人口大約十萬
鷄籠港 淡水ノ東北ニ

長崎マデ
海里八百
七十哩

アリ、潮流極テ急ナルヲ
以テ、小船ノ碇泊ニハ適
セザレドモ、三面山ヲ負
ヒ、又要害ノ港ニシテ、鐵
道電信ノ便アリ港南ニ
鷄籠町アリ、人口七萬、夥
シク石炭ヲ産出ス。
安平港 臺南ノ西、凡ソ一
里ニアリ、商業盛ニシテ
市街清潔ナリ、浪荒ク砂

圖ノ狗打



圖ノ陸基



旗後トモイフ

多キヲ以テ、船ハ港外ニ碇泊ス、コ、ヨリ臺南府ニ通ズル運河ノ便アリ。

打狗港 安南ノ南、大約十五里ニアリ、打狗山、港頭ニ聳エテ、海門ヲナシ、港口狹シ。

蘇澳港 東岸蕃地ノ境ニアリ、水ノ深、四五丈、汽船ノ繫泊ニ宜シ、ソレヨリ、南ニ奇萊港、青港アリ、淡水ノ西南ニ、雙寮港、後壠港、鹿子港、笨港アリ、打狗ノ南ニ風港アリ。

岬ハ、北ニ亞理磅角、富基岬、三貂角アリ、南端ニ龜壁岬、南岬アリ。

岬

島嶼

西洋人ハ

ビスカド

ルストイ

フ

漁翁島ハ

一名西嶼

白沙島ハ

一名北海島

第六章 島嶼

澎湖列島 東經百十九度十九分ヨリ、百二十度四十一分ニ至リ、北緯二十三度十二分ヨリ、四十七分ニ至ル、支那本部ト臺灣島トノ中間ニ位シ、大小五十餘島アリ、人口十萬。

列島ノ中、澎湖島最モ大ニシテ、漁翁島、白沙島之ニ亞グ、コノ三島相抱キテ、天然ノ良港ヲナシ、船艦三十餘隻ヲ容ル、ニ足ル、實ニ南洋ノ要點ニシテ、臺灣島ノ咽喉タリ。

澎湖島廳ノ在ル所ヲ媽宮港ト云フ、人家凡七八

栽養セバ
樹木成育
ノ見込アリ
リトイフ
甘藷ヲ以
テ酒ヲ製
ス

紅頭嶼着
民千餘漁
牧ヲ業ト
ス
小琉球山
人口二千

百戸ヲ有シ、風波穩ナルヲ以テ、碇泊ニ便ナル良
港ナリ、而シテ、孰ノ島モ、山ナク草木ナク、砂礫ト
赤土トニシテ、飲水ニ乏シク、米穀ヲ産セズ、唯僅
ニ豆、落花生、甘藷、西瓜等ヲ作ルニ適スルノミ、居
民ハ大概魚漁ヲ營ミ、鹽ヲ製シ鶏豕ヲ畜ヒ、之ヲ
臺灣ニ輸出シ、米穀、甘藷或ハ果物等ト交易ヲナ
ス。

臺灣本島ノ北邊ニ、桶盤嶼、燭臺嶼、花瓶嶼、鷄籠島
アリ、東邊ニハ、龜山島、火燒島、紅頭島アリ、南ニ小
琉球山アリ、西南ノ海中、陸地ニ近キ所ノ七箇ノ

火燒島人
口五百

島嶼、恰モ球ヲ貫ケルガ如キモノヲ、七鯤身ト名
ツク、ソノ北ニ鹿耳門嶼アリ。

第七章 府縣 附名勝

府
元臺灣府
トイフ

臺南府 西南ニ海ヲ控ヘ、東南北ノ三面、沙地ニ
シテ、甘藷ヲ植ウルニ適ス、蘭人ノ築キシ古城アリ、
南ハ鳳山縣ニ通ジ、北ハ嘉義縣ニ達ス、人口十
三萬五千ナリ。

縣
明治七年
我が軍ノ
築キシ砲
臺アリ

安平縣 臺南府ノ西ニアル貿易場ニシテ、海關
ノ設アリ、人口凡、千五百。
鳳山縣 打狗港ノ東北ニアル市街ニシテ、甚繁

生蕃境

盛ナラズト雖モ、人口五千アリ、此地米穀ヲ産ス。恆春縣 極南ニアリテ、東西南ノ三面海ニ臨ミ、北ハ鳳山縣ニ接ス、山多ク田野少シ。

縣城ノ東
南ニ火山
アリ

嘉義縣 臺南府ノ東北ニアリ、水流多ク地肥エ

南ハ虎尾
溪北ハ大
甲溪

テ、穀類果實ヲ産ス、人口凡、壹萬五千アリト云フ。

彰化縣 南ハ嘉義縣ニ界シ、北ハ新竹縣ニ接ス、

土地平坦ニシテ、水利ニ便ナルヲ以テ、農産豐ナ

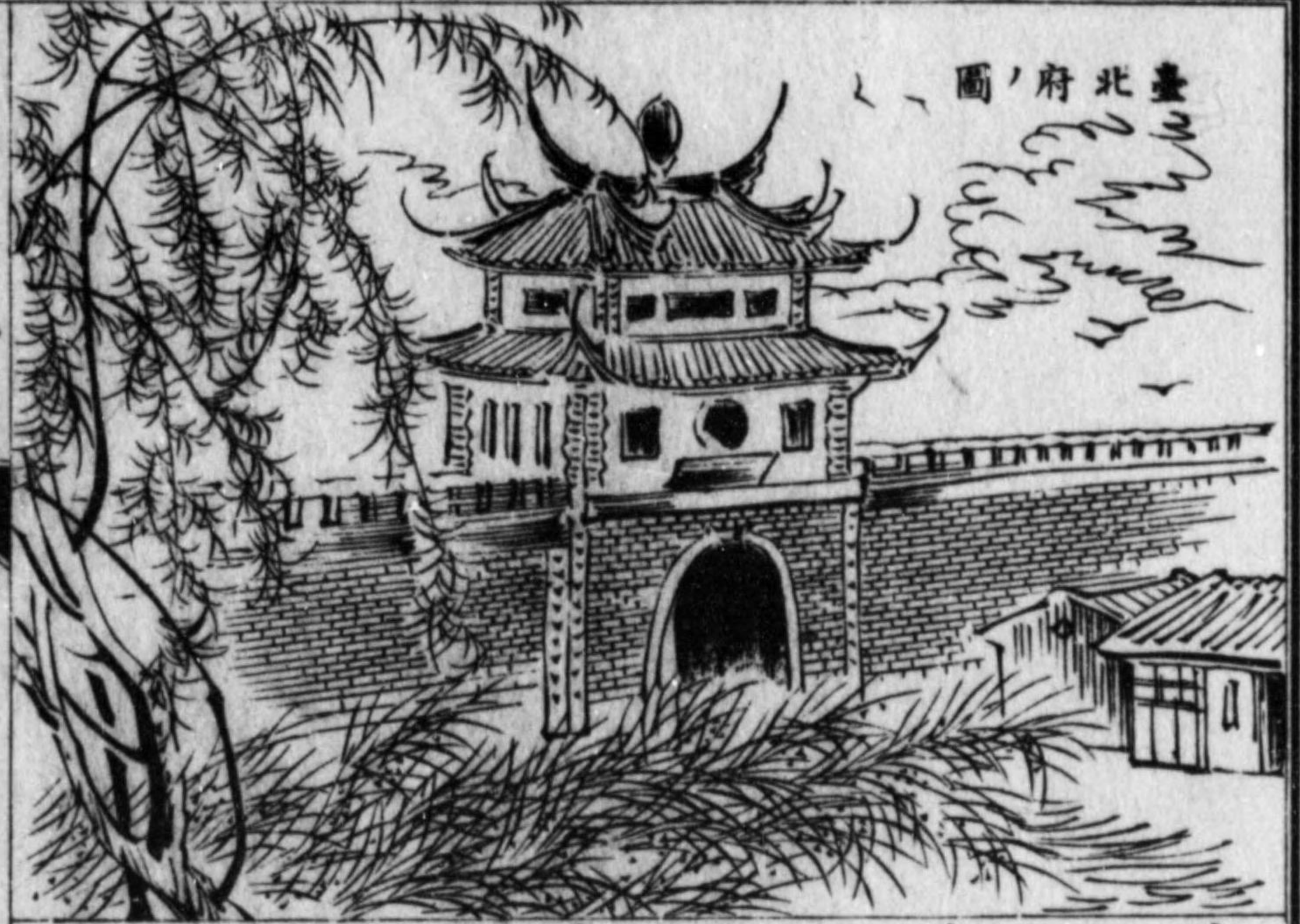
リ、人口凡、二萬。

新竹縣 南ハ彰化縣ニ界シ、北ハ淡水縣ニ接ス、

地勢山ヲ負ヒ、海ニ臨ミ、多クノ溪港アリ、又地味

郵便局電
信局府縣
衙文武廟
アリ
臺北府ハ
大抵井水
ヲ飲料ト
スト雖モ
水量少ク
汚穢ニシ
テ用井ガ
タシ
孟申大稻
程ハ河水
清澄ナル
ガ故ニ皆

臺北府ノ圖



饒ナルヲ以テ、耕作ニ適ス、人口凡、四千五百。

臺北府 四面山ヲ繞ラ

シ、地勢恰我西京(山城)ニ似

タリ、淡水河其間ヲ流ル、

地ハ粘土ニシテ、山ニ樹

木少ク、稀ニ灌木アリト

雖、矮少ナリ、而シテ、平行

ノ地ハ、到ル所孟宗竹繁

茂セリ孟申(即淡水縣)大

之ヲ用ウ

稻程ノ兩市街、淡水河口ヨリ五里許ノ所ニアリ
テ、共ニ繁昌ヲ極ム、コノ兩市街ト、府城内トヲ合
シテ、人家四千餘戸ニ達セリ、就中府城ノ市街宏
莊清潔ニシテ、馬車人車ノ便アリト云フ、又大稻
程ニハ、盛大ナル製茶場アリテ、輸出甚多シ。
淡水縣 西北ハ海ニ面シ、東ハ宜蘭縣ニ接ス、此
地商業繁盛ナルヲ以テ、土人ニ富商多ク、又竹細
工ヲ商フモノ多シ。
宜蘭縣 土地肥沃ナリ、舊噶瑪蘭廳トイヘリ、人
口六千アリ、多クハ熟蕃人ナリ。

名勝

高砂、稱
之ニ原ツ
ク

航海者ノ
望標タリ

モリソン山ハ遠ク洋上ヨリ望メバ、深林茂樹ノ
風景太佳ナリ。
安平港ニハ、和蘭人ノ築キシ砦アリ、樹間ニ聳エ
テ、光景畫ケルガ如シ。
安平鎮附近一帶ノ沿海ハ、白砂綠樹相連リ、風景
甚明媚ニシテ、邑治八景、郡八景ノ勝アリ。
淡水河ノ上流、沿岸ノ嶮シキ所ニ古梅多ク、花時
ノ景甚美シ。
大鷄籠山ハ、鷄籠港ノ後ニ聳エテ、海山ノ眺望、頗
ル佳ナリ。

道路

第八章 交通 道路、鐵路、電信

道路ハ、淡水ヨリ鷓籠ヲ經テ、臺北府ニ至ルモノト、鷓籠ヨリ宜蘭ヲ經テ、蘇澳ニ至ルモノト、臺北府ヨリ臺南府ヲ經テ、打狗ニ至ルモノトアリ。鷓籠ヨリ臺北府間ニ、鐵道アリテ、毎日三回ノ往復ヲナセリ。

鐵道

電線

淡水港ヨリ清國福州ニ、安平港ヨリ澎湖島ニ通ズル海底電線アリ。淡水ヨリ安平、打狗ニ至ルマデノ陸上電信アリ、西部ノ地ハ、河水運輸ノ便アリ、都邑ノ間ハ、道路

人口

廣ク平カニシテ、牛馬ヲ以テ、貨物ヲ運送セリ。

第九章 人民及風俗

人口ハ詳ナラザレドモ、土人及ビ熟蕃人ヲ合セテ、大約三百萬人ナリト云フ。

住民

住民ハ、土人ト蕃族ト外人ニシテ、蕃族ニパイワ

土人ハモト支那人

高尚ナル土人



生蕃



ナレ氏故
ラニ土人
ト書ス

土人

ン、デボン、アミヤス、ペポーソン(平埔)ハ一カ(客家)
ノ別アリ、而シテ、パイワン、デボン、アミヤスヲ生
蕃ト云ヒ、ペポーソンヲ熟蕃ト云フ。
土人 古昔ヨリノ移住民ハ、今日ニアリテモ、尚
古風ヲ殘セドモ、近世ノ移住民ハ、清、福建省、廣東
省ヨリ來リシモノナルガ故ニ、支那人ト同ク、男
子ハ辮髮シ、女子ハ縮足ス、而シテ男ハ農業商業
ヲ事トシ、女ハ刺繡、裁縫、紡織ヲ巧ニス、此等ノ土
人ノ下等ナルハ、多ク佛教ヲ信ジ、頸ノ邊ニ佛像
及、己ノ姓名ヲ記シタル小牌ヲ繫グ、一般ニ米、茹キリ

女ハ老年
マデ花釵
ヲ挿ス

眞薰ク
臭シ

パイワン

牡丹社ハ
此ノ族ナ
リ

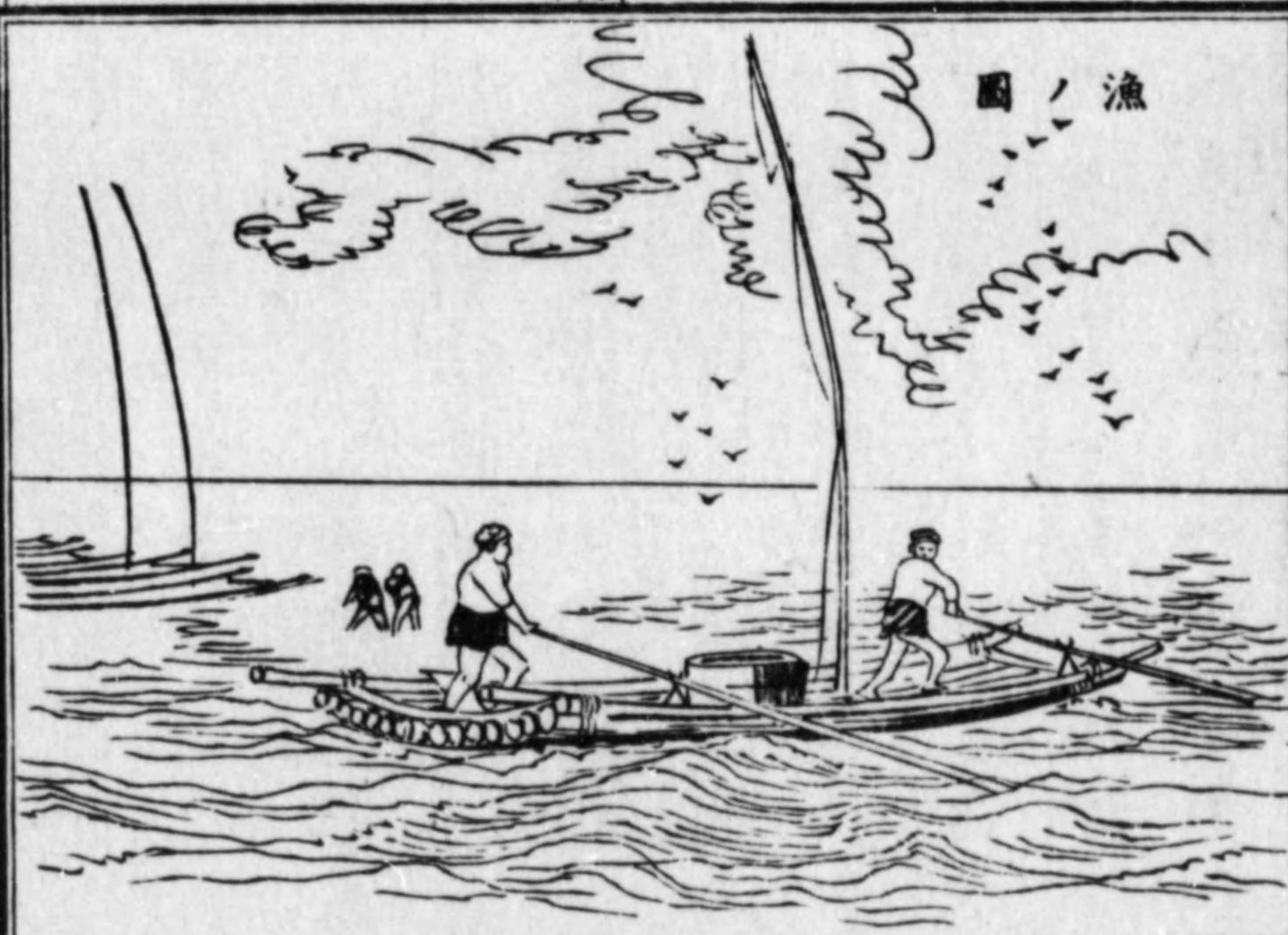
デボン

條、魚類、芋粥等ヲ常食トシ、好ミテ鴉片アヘンヲ吸ヒ、蒜
ヲ食ヒ、檳榔子ヲ啣ム。
パイワン 最古キ蕃族ニシテ、顔ハ銅色ヲ帶ビ
身體強ク性暴シ、高山ニ棲ミ、專、獸獵ヲ事トシ、又
甚酒ヲ好ム、胸ト肩トニ衣ヲ纏ヒ、ソノ上ニ鹿皮
ヲ被フ、秋毎ニ互ニ藏セル所ノ頭骨ヲ出シ、一場
ニ陳列シ、其多キヲ誇ル。

デボン パイワンニ次デ、臺灣ニ來リシモノナ
リ、此種族ハパイワンニ比スレバ、幹軀短小ニシ
テ、性稍順良ナレドモ、一般ニ於テハ略同一ナリ、

他族ト對
等ノ交ヲ
得ズシテ
服從スル
ノ風アリ

アミヤス



漁ノ圖

常ニ漁獵ヲ業トス、酋長ノ族ニ限り、手腕ニ黥セリ、脛衣ヲ穿チ、胸衣ヲ著ル此種族ノ中ニハ、鐵工銀工等アリ。

アミヤス 蕃地ノ中央部ニ住ス、而シテ、以上ノ二種族ト、身體骨格稍異リ、自別派ニ屬ス、全身多毛ニシテ、節骨逞シ、秋

父ハ閩粵ノ流民ニシテ母ハ生蕃ナリト云フ又琉球ノ漂民ナリトモ云フ

ハカ

内山ノ客人ト稱ス恐クハ他ヨリ移住シテナラ

土人ハ金ヲ懸ケテ

獲ノ時ヲ新年トシテ、祭ヲナス、(他族ニハ)生業ハ獵ト農トナリ。

ペポーソン(平埔) 熟蕃ト稱スルモノニシテ一種特別ノ種族ナリ、性質甚順良、最農業ニ適セリ、生蕃ト交易シ、又土人ト交レリ。

客人 以上ノ種族ト異ニシテ、一見支那人ノ如シ、住所ハ生蕃ト土人トノ間ニアリ、専ラ農耕ニ從事シ、土人ト相和セズ。

蕃民ハミナ土人ヲ嫌ヒテ、仇トナシ、却テ外人ト親メリ、土人ハ狡智ヲ以テ、蕃民ヲ凌ゲドモ、外人

生蕃ノ頭ヲ慕ル

ハ、反テ信義ニ篤キガ故ナリ、和蘭人ノ如キハ、ソノ昔、蕃地ニ學校ヲ建テ、教化ヲ布キタリト云フ。明治七年臺灣征伐ノ時、蕃民我軍ノ恩威ニ服シ、將士ヲ迎ヘ、宴ヲ開キ、歌舞シテ、悅ヲ表シタリキ。

第拾章 沿革

沿革

胡蝶軍トハ陣ニ臨ミテ一人扇ヲ揮ヘハ衆刀ヲ舞シテ進

太古ハ、全島皆蕃民ノ住スル所ナリシガ、今ヨリ凡、三百年前(戰國ノ末)我西邊ノ勇悍ナル人民、海ヲ航シテ、臺灣ニ據リ、支那ノ南境ヲ侵セリ、明人ハ、胡蝶軍ト呼ビテ之ヲ避ケ、南洋人ハ、八幡船ト稱ヘテ、之ヲ畏レタリキ、其魁源某、自、大將軍ト號

臺灣新地誌

田沼藏版

ム狀ヲイフ

八幡船トハ八幡宮ノ旗ヲ掲クルヲ以テ也
和蘭人毎
年鹿皮三
萬ヲ我民
ニ贈リテ
歡心ヲ求
メタリ

セリ。

元和ノ頃(徳川秀忠將軍)ハ、全ク我國民ノ占領ニ歸セリ、當時明ハ清ニ侵サレ、國勢危カリシカバ、明ノ將、顏振泉、鄭芝龍相次デ臺灣ニ據リ、我國人ノ助ヲ得テ、恢復ヲ計リシガ、事遂ニ成ラザリキ、其後、和蘭人遂ニ土地ヲ奪ヒ、城砦ヲ築キ、貿易ヲ營ミ、我國民ニ代リテ、臺灣ノ主トナレリ。

寛永四年ノ頃、長崎ノ商、末次平藏ノ船、和蘭人ノ爲メニ、劫掠ニ逢ヒシカバ、平藏ノ友人、濱田彌兵衛、弟、小左衛門、子、新藏等、從者數十人ヲ率テ、臺灣

臺灣新地誌

十三 子 氏 氏

太守ノ子
及蘭人數
人ヲ質ト
シテ伴ヒ
歸レリ

田川氏後
泉州城ニ
於テ節ニ
死セリ
成功ノ弟
七左衛門
幕府ニ詣
リ援兵ヲ
乞ヘリ

ニ到リ、農夫ニ姿ヲ微シテ、城ニ入り、謀ヲ以テ太
守ヲ捕ヘ、貨財ヲ償ヒ、罪ヲ謝セシメタリ。
寛文元年、明ノ鄭成功、襲ヒテ和蘭人ヲ逐ヒ斥ケ、
守備ヲ修メ、政教ヲ布キタリ、成功ハ芝龍ノ子ニシ
テ、母ハ田川氏ナリ、肥前平戸ニ生ル、明ノ隆武帝
成功ニ朱姓ヲ賜ヒ、高官ヲ授ケタリ、時ニ、明將ニ
亡バントス、成功之ヲ恢復セントシテ義兵ヲ擧
ゲ、屢、清兵ヲ惱マセシガ、後、敗レテ臺灣ニ據レリ、
子、經、善、父ノ志ヲ繼ギ、兵ヲ練リ民ヲ撫デシガ、孫、
克、塽、清ニ降り、臺灣其版圖ニ入り又、然レ、氏、政令

西郷從道
都督タリ
谷干城赤
松則良參
軍タリ
有功日進
孟春明光
ノ四艦ニ
シテ兵三
千六百五
十人
佛ノ提督
クルール

宜シカラザル爲メ、叛亂相繼ゲリ、明治四年、琉球
ノ漂民五十名、生蕃ノ爲メニ殺サレ、六年、備中ノ
漂民四名、亦害ニ逢ヒシカバ、朝廷兵ヲ出シテ、之
ヲ討チシニ、清國償金ヲ出シ、ヲ以テ事平ゲリ
明治十七年、清佛ノ戰ニ、鷄籠及澎湖島、一たび佛
軍ニ奪ハレシガ、後、舊ニ復シヌ、コレヨリ、清ノ巡
撫劉銘傳、電信鐵道ヲ設ケ、大ニ土地ヲ拓キ、兵備
ヲ嚴ニセリ。

明治二十七年、我國朝鮮ノ爲ニ、清ト戰ヲ交ヘシ
ニ、翌年、清國渝盟ノ罪ヲ謝シ臺灣ヲ割キテ、我國

臺灣總督
樺山資紀

臺灣新地誌

ニ致セリ、アハレ、カ、ル未開ノ蕃民モ、至深ノ皇
澤ニ沾ヒテ、無二ノ仁政ヲ樂マン世ニ逢ヒシコ
ソ、メ、デタキ、ノ限ニハアレ。

臺灣新地誌 畢

明治二十八年九月九日
同 年九月十二日

印刷
發行

定價金拾貳錢



編輯者

發行兼
印刷者

發兌元

發賣所

松友學館

石井宮三郎

東京京橋區八官町五番地

田沼太右衛門

東京京橋區八官町五番地

田沼書店

神奈川縣橫濱尾上町三丁目

田沼書店

埼玉縣北葛飾郡杉戸町

田沼支店

